

進捗状況の概要（1ページ以内）

本事業の英語名称 Intensive Issue Based Education and Training Program から略称 II-BEAT（愛称ツービート）と名付け、学内で周知を図っている。以下本事業名を II-BEAT 事業と記していく。

1. 事業計画実施体制

全学的展開の前にモデルケースとなる国際教養学部における実施体制の整備を行い、あわせて全学的に質保証および教学 IR の実施体制を整える組織体制の整備を行った。

①国際教養学部の実施体制整備

プログラムを試行実施する国際教養学部では、カリキュラム編成、学修支援、相談体制そして学部内教学 IR の試行を企画総括する「II-BEAT 事業実施本部」を設け、カリキュラム運営における実務的な運営を「拡大学務委員会」で行い、また学修支援、学部内教学 IR の運営においては「学修支援・学務系事務組織」で整備展開する実施体制を整えた。

②国際未来教育基幹の機能強化・高等教育センターの設置

全学的な教育体制をつかさどる国際未来教育基幹の機能強化を図り、基幹の中に新たに高等教育センターを令和4年度に新設する準備を行った。これによってデータを活かした教学 IR、質保証を全学的に展開する体制を整備した。令和3年度では国際教養学部内において学部内教学 IR データの活用について試行を行った。

2. 達成目標と事業内容**①「三つの方針」を通じた学修目標の可視化**

まず国際教養学部において本学の3つの方針を点検し、それに併せて3つのメジャー（グローバル・スタディーズ、現代日本学、総合科学）それぞれの CP、DP の改訂を行い、学修による達成目標を明確にした。

②授業科目・教育課程の編成・実施

令和3年度の学部開講科目の統合集約を学部全体で検討をし、集約的ターム編成をめざす学務上の整備を行った。あわせて令和3年度にすでに実施した授業科目2科目を、AI 言語で制作したオンデマンド教材を通じて受講者に改めてフィードバックを行い、令和4年度本格実施の試行を行った。

③学修成果・教育成果の把握・可視化

令和3年度においては3年次および4年次生より、これまで開講されてきた授業科目に対する学生側からのフィードバックを得るため、カリキュラムに関わるアンケート調査を実施した。その上で今後学生にとっての学修成果をどう把握するのか、教育成果をどう捉えるかの検討を行った。

④学修成果や教育成果、教育の質に関する情報の公表

II-BEAT 事業を周知する Web サイトおよび、国際教養学部の課題先行型カリキュラムの紹介とそれに基づいた II-BEAT 事業に関する Web サイトを製作し公開した。

3. 年度別の計画（当該年度のみ）

国際教養学部において教育プログラム開始準備を行い、まず国際教養学部の3メジャー各1つのモジュール科目群編成を行い授業科目の集約化を行った。あわせて大学院総合国際学位プログラムとの連携を進め、モジュール科目群拡充の準備を行った。

4. 留意事項への対応状況

学修成果の把握、可視化のあるべき姿について前掲 2③に記したように対応準備を行った。セルフデザインギャップターム運営の実施体制について事業組織の中で相談対応体制の整備を行った。

5. 全学的波及に向けた計画及び工程への対応状況

今後高等教育センターとの連携をすすめる、令和3年度で行った II-BEAT 事業で行いうる学修成果の可視化の方法やその成果分析のあり方について検討する予定である。また高等教育センターとの連携を想定した全学 FD の準備も進めている。